

## 北陸中日新聞が、看護現場・県医労連の活動を取材

（第3種郵便物認可） 北 陸 中 日 新 聞 富 山 2017年（平成29年）10月8日（日曜日）

### 減らぬ夜勤 病む医療現場

#### 看護師 人手不足が加速

全国で問題になっている医療現場での過重労働。富山県内でも五月以降、看護師らが富山駅前で抗議活動の改善を求めて集会を開いている。参加した看護師は夜勤時間を改める必要性を特に指摘し、「医療事故を防ぎたい」と訴えている。（向川 繁登）

「夜勤がある週二、三回はずき寝られない。これが続くとうとう大変で...」

富山市の病院で働く女性看護師（匿名）は喪われた表情で語る。小学二年から高校一年までの息子二人の子育て中だが「子どもと接する時間がほほほ、最近はずしも親に甘えてくのが申し訳ないと思うようになって、なんだか切なくなる」と涙ぐむ。

看護師の勤務時間は日勤と夜勤に分ける二交代制と、日勤、準夜勤、夜勤に分ける三交代制がある。二交代制は十六時間の夜勤と八時間の日勤、三交代制は各時間帯に八時間勤務。

この女性が働く病院は三交代制を採用し、夜勤は月九回から十回に上る。夜勤の回数は、人事院が

一九六五年に月八回以内とする基準を設けている。看護師の育成などに伴う基本方針を示す看護師確保法も月八回以内と定めるが、期間が長く守られていないのが実情だ。

「人手不足から夜勤に入るけれど、うちはまだ理解があるほう。総合病院では十二、十三回入ることもあるし、時間内には終わらない。学生の同期は働き過ぎでやめた人もいる」

日本看護協会（東京都）が昨年実施した調査では、夜勤時間の長い病院ほど離職率が高くなる傾向があることも分かった。夜勤が月七十二時間を超える職員が10%未満の病院では、離職率が9.1%だったのに対し、半数以上いた病院では、11.9%にまで上昇していた。

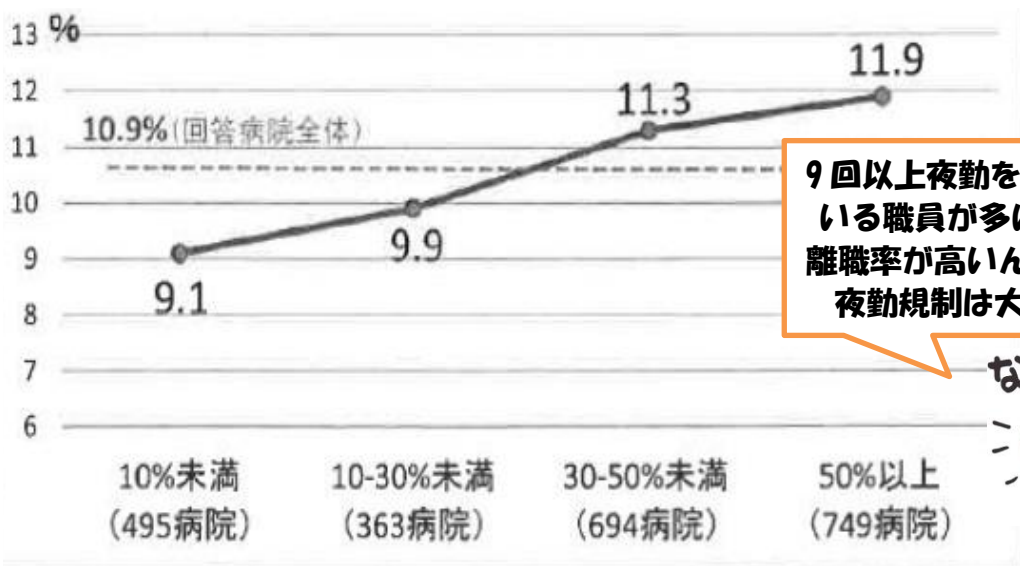
労働環境の悪化は富山の課題もある。先月、日本医療労働組合連合会が明らかにした全国の看護職員二万三千人を対象にした調査によると、職員の五割が妊娠時の夜勤を免除されていないと回答した。このうち、一〇一四年以降に妊娠した三千三百人のなかで、35%が切迫流産や早産を経験。不規則な勤務時間による母体へのストレスが懸念されている。

県医労連の新保京子書記長は「夜勤が多くなるミスを引き起こしやすくなるし、過酷な勤務時間が人手不足を加速させている」と指摘。「人手不足は変えられないが、夜勤に関する前記規定を設けるなどして回数を減らしていかなければいけない」と訴える。

看護師らの労働状況などの改善を訴える集会—今年5月、富山駅前

地域未来派

## 看護職員に占める月夜勤時間数が72時間超（夜勤月9回以上）の看護職員の割合別にみた離職率



9回以上夜勤をやって  
いる職員が多いほど  
離職率が高いんだね。  
夜勤規制は大事！



北陸中日新聞が、看護師の人手不足を取材し、①月9日以上の夜勤が、人事院判定・看護師確保法指針に抵触すること②夜勤回数9回以上の看護師が多い職場ほど離職率が高いこと③日本医労連の労働実態調査で、職員の5割が妊娠時の夜勤を免除されていないことなどを紹介しています。